

シグマ研究委員会核融合炉・遮蔽定数ワーキンググループ

遮蔽定数サブワーキンググループ会合議事録

- 日 時 昭和57年6月17日(木) 9:30-12:00
場 所 富士通システムラボラトリー 1133会議室
出席者 南(富士通), 佐々木(MAPI), 川合(NAIG)
萬代(IHI, オブザーバー)
- 回覧資料 ① ORNL遮蔽ベンチマーク実験解析用線源データ作成プログラムリスト
と計算結果(佐々木)

— 議 事 —

1. 線源データの作成

JSD-1000 セットの100群構造に対応して線源データを作成するためのプログラムおよびデータ処理方法について佐々木委員から説明がなされた。処理は、線源スペクトルを linear 内挿して行っている。結果は積分誤差の影響を除くために全線源強度について規格化している。但し、計算結果は、約5%の誤差を示している為、コードおよびデータの見直しの必要性が確認された。また、出力は、ANISNの shell source としてカードで出すように要求があり、了承された。

2. 検出器応答関数の作成

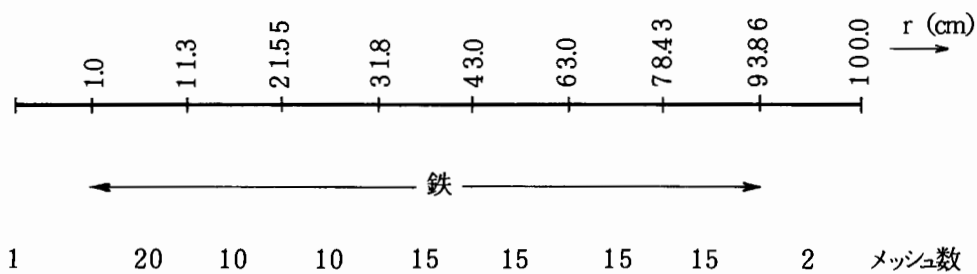
ボナーボール検出器の100群の応答関数の作成について検討した。これは、エネルギーに対し緩い関数なので、各群の平均的なエネルギーの値で代表させてもほぼ問題はないと考えられる。データの作成は佐々木委員に一任された。

3. FAIRCROSS step 2 データの作成について

鉄および空気の原子数密度及び Sn 分点数を確認した。同データの作成を萬代氏に一任した。

4. DIACコード入力データの作成

1次元 Sn 計算用の体系を検討し、下記の如く決めた。



線源は第1メッシュ右端に shell source を置く。Sn 分点は, ESPRIT 計算が非対称 Sn 分点を用いて行うならば S_{32} によるが, そうでなければ S_{16} とおく。6/23に決める。入力データの作成は川合委員に一任した。

5. FDEM, DARPL 用入力データの作成

定数縮約および ANISN 型 Pe定数への変換処理用のデータの作成は南委員に一任した。